

はじめの一步、未来をこのまちから

ショッピングセンターも、大きな繁華街も、娯楽施設もない。何も無いと言われる町だけれど、住みたい田舎として上位にランクインするなどメディアにも取り上げられるようになった浪江町。今回は浪江町で生まれ育ち、避難を経てUターン移住したお二人と田村市からIターン移住した人に浪江町で暮らす理由を伺いました。三人の生き生きと話す姿から、ふるさとの魅力が新たに見えてきます。



栃本 あゆみ さん
(室原出身)

2021年に浪江町へUターン移住し、2023年8月4日(金)、チャレンジショップから初めての独立となるおむすび専門店「えん」をオープンしました。



田中 将太 さん
(権現堂出身)

2021年に浪江町へUターン移住し、老若男女問わず愛される美容室を目指して、2023年7月20日(木)に美容室nen.をオープンしました。



具材と一緒に「ご縁」を込めたおむすび
(焼鮭と卵黄醤油漬)

「人と人のご縁を結ぶ」おむすび
「ただいま」と戻って来られるように」
栃本さんが、おむすび専門店「えん」をオープンさせようと思ったのは、震災後に、室原への帰還を望んでいた祖父母と父が避難先で亡くなったことがきっかけでした。家族を帰らせてあげることができなかった無念さが残っていた栃本さんは、「一町の人が、ただいま」と戻って来られるような、また、復興に携わる人たちが心も体も安らげるような場を作りたい」と決意しました。

2021年10月に町へ移住し、どのようなお店にしようかと思ったとき、おむすびが頭に浮かんだそう。県外で働き始めた頃、炊き立てのご飯で握られた、おむすびを食べ、心が癒された記憶がよみがえりました。

2021年10月に町へ移住し、どのようなお店にしようかと思ったとき、おむすびが頭に浮かんだそう。県外で働き始めた頃、炊き立てのご飯で握られた、おむすびを食べ、心が癒された記憶がよみがえりました。

翌年10月に制度の期限を迎えたお店を閉め、チャレンジショップ制度から初めて起業することができました。

移住・起業の チャレンジ支援

栃本さんが利用した「チャレンジショップ」は、新しい浪江町を創り上げていく拠点の一つとして、新規事業者が活躍する場です。



お客様一人ひとりとのご縁を大切に、
感謝の念を込めたヘアスタイルをご提案

「起業を町の復興につなげ、活気を吹き込む手助けになりたい」
田中さんは震災後、郡山市やベトナムホーチミン市で美容師として働き、新型コロナウイルス感染症の流行を機に日本へ帰国しました。浪江町に戻ったきっかけを伺うと「母が浪江町で震災前の家業だった飲食店の再開に向けて動いていましたので、それを手伝うために戻ってきました。ゆくゆくは海外に渡航できるタイミングで、再びベトナムで美容師として働こうと考えていました」と当初は一時的な帰国だったそうです。

田中さんは母親の家業を手伝う中で、「復興に携わる人たちの想いを知って、自分もできることで浪江町を盛り上げたい、町の人もヘアスタイルを楽しんでもらいたい」と浪江町の起業を考慮するようになったそうです。

外国からの移住者が増えている浪江町の起業は、楽しみの一つとして、「ベトナムで培った国際感覚をもとに国籍関係なく、満足いただけるヘアスタイルを提案して、オシャレを楽しんでもらえたら嬉しいです」とお客様のオシャレを楽しむ姿が自身のやりがいにつながっていると語る田中さん。

店名に込めたある想いが、将来の楽しみにつながっているように、nen.にはお客様一人ひとりと「念」を持って、「一緒に『年』を重ねていく。『ご縁』を大切に長く付き合っていきたい」と願いを込めているんです。子供のお客さんも多いので、成長を見守りながら働いて、美容室nen.に憧れた子供が大きくなって、一緒に働くことができたら本当に素敵なことですよ」と子供たちが憧れを持ってくれるようなお店にしたいと将来の夢も語ってくれました。

